

八潮市議会議員 あさだ和宏(43歳)無所属(民主・市民クラブ)



継続こそ・力なり!!
子育て世代の声を市政へ!!

未来の八潮・子どものために… 和宏のほっとかない!! NEWS vol.43〈6月議会報告〉

編集・発行

あさだ和宏を育てる会
会長 落合 利治
編集長 中井 欣也

〒340-0821 八潮市伊勢野306
FAX 048(996)4361

●発行日 平成23年8月●

討議資料

子供に
ツケを
まわさない!



プロフィール

1968年 3月28日
八潮市に生まれる(現在43歳)
市立大瀬小(八小)大原中(二中)を卒業
私立成立学園(商業科)を卒業
01年 (社)八潮青年会議所理事長
(青年会議所の事業を通して、
政治のあり方・教育問題に関心を持つ)
01年 9月市議選に立候補
(最年少候補(当時)33歳)
1229票12位当選
05年 9月
2度目の市議選に立候補(37歳)
1415票9位当選
09年 9月
3度目の市議選に立候補(41歳)
1733票3位当選
現在、3期目(民主・市民クラブ)
専修大学 法学部(2部)現在4年生

所属団体

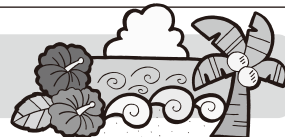
地方政治改革ネット 会員
青年地方議員の会 会員

ホームページ

あさだ和宏

検索

暑中お見舞い申し上げます



夏本番を迎え、連日厳しい暑さが続いています。皆さんお変わりありませんか?私は日々、元気に活動をしています。

今年の夏は震災の影響等で、節電が一段とクローズアップされるなど例年とは少し違う雰囲気もありますが、工夫をしながら暑さに負けず元気に日々をお過ごし下さい。

6月議会が開催(6月1日～20日)されました。

今回の議会では私は原発事故に伴う放射線の測定について一般質問を行いました。(詳細は次ページ)この件に関しては、市内にお住まいの保護者(特に小さなお子様をお持ちの方)の皆さんから「市内の放射線の量はどうか?」と心配される声私の所にも多く寄せられました。(実際にお会いして相談した方や、メール等で要望を寄せられた方など様々でした)

この件に関しては、本市では簡易測定器を購入し測定結果を市のホームページで公表しています。「参考値」(現在は埼玉県でも実施しています)また、市民の皆さんへ、測定器の貸出しも実施しています(予約が取りにくい状況)

このような取組みは、県内や近隣市の中でも比較的早い段階で実施しており、この件に関して市役所としての取組みは評価すべきものであると私は考えています。

地方分権一括法が施行され10年以上が経過しました。以前のような国や県からの指導や通達を待って様々な施策を実施する時代ではありません。これからの行政(自治体)は「自治体が自ら積極的に動く」ことが重要だと考えます。これからも、議員としては勿論ですが、議会としても先に述べたような先駆的な取組みが実施出来るように、私自身も日々、努力をしておりますので宜しくお願いいたします。

八潮市議会議員 あさだ和宏

上田 きよし 埼玉県知事 3期目当選!!

上田きよし氏 1,191,071票(八潮市 12,300票)

投票率 24.89%(八潮市 23.53%)

今回、カラス部隊(ウグイスの男性版)として、上田知事(候補)と一緒に活動をしました。

特に秩父での「出陣式」、寄居町で一泊し、上田知事と、身近に政治に関して議論をしたことは貴重な体験になりました。

3期目も、県民のトップリーダー、さらに混迷する日本を動かす人物として活躍されることを期待します。



知事選出馬要請のために県庁を訪れた際

一般質問

市独自の放射線量の測定について

Q 3月に発生した原発事故以来、多くの市民から市内の放射線量の測定について問い合わせがあります。本市でも独自に市内の保育所、学校、公園等、子ども達が集まる場所を中心に測定をする必要があると思うが市の考えについて

A 市では国のモニタリングと同様のガンマ線を測定する携帯測定器を15台購入し、学校、保育所、公園等の継続的な監視測定を強化していきたい。

Q 測定する場所について例えば学校の場合、校庭の中央部分で測定をしているが、校庭の隅や植え込み等、比較的、放射線量が高いと思われる場所も測定する必要があると思うが。

A 現段階で、国や県の測定基準がなく、その中でどのような測定が良いのか県に確認をして実施している。

Q 今後、市民の方へ測定器の貸し出しを行う予定だが、もし市民の方がある箇所を測定し、かなり高い放射線量が出た場合の対応はどのようにするのか。

A 担当部署と連携し、適宜迅速に関係機関と相談し対応を考えていきたい。

和宏の考え・意見

今回の件は、今まで私たちが経験したことがない事態であり、市役所内の部署でも放射線に対して専門的な知識がない中で、どう対処するのか行政側も苦慮したと思います。この問題は一自治体で解決することではありませんが、本市は比較的数字が高いと言われている地域の一つなので、明確な基準を独自で設定をし、対応することが大切だと思います。

震災発生時の下校方法について

Q 3月11日の震災発生時、小学校の下校方法が各小学校で違うケースがあり、中に

◎大学(4年目)も前期が終了、9月中旬まで夏季休暇中です。さて前期で何単位取得出来たか?(結果はいかに...)

は、保護者が帰宅することができず、余震が続く最中、低学年児童が一人自宅で待機をするというケースもあったと聞いています。今後このことを考慮し、同様な事態が発生した場合、市の統一見解、マニュアルを定める必要があると思うが。

A 今回の大地震では、本市は震度5弱と今までに経験したことがない揺れを感じましたが、学校周辺では大きな被害がなかったために各学校では安全を確認し、引き取りや集団下校という形で教員が途中まで引率するなどして下校させた。

後日、緊急に各校長を招集し、対応状況の課題や反省点を挙げ、今後の安全確保について共通理解を図りました。今回の課題では、公共交通機関の運行停止、それに伴う交通渋滞等の状況把握が不十分であったことをふまえて、学校として行うことは、子供たちが保護者から手を離れ、保護者に返すまでが学校の責任であることを念頭に置き今後、このような場合は、確実に学校から保護者の手元へ引き渡しをしていくことを再確認した。

和宏の考え・意見

震災発生から数日後、ある保護者の方から学校の対応に関して私に相談がありました。(内容は当日、都内の会社から帰宅することが出来ず、結局夜10時過ぎまで、小さいお子さん一人で自宅待機していた)

今回、それぞれの学校での対応がまちまちであったことは課題であります。教育委員会として今後は「引き取りを原則」という一つの目安が提示されました。

また、再質問で提言しましたが、このような事態となった場合、市のホームページや防災無線を活用し、確かな情報を積極的に発信する必要があるのではと提案し、教育委員会側も、今後整備するように努力していきたいとの発言がありました。

生産緑地制度について

Q 生産緑地に指定された農地について、市として実態調査を実施した時期とその調査結果について

A 調査内容については、平成21年12月現在

在、生産緑地地区として指定されている175地区について、耕作状況及び、指定標識の設置状況の確認を実施。その結果、耕作状況について、農地として管理されていない箇所が2地区、標識の設置の所在が確認できない箇所が32地区あった。

Q 農地として管理されていない箇所を所有している方への指導は

A 適切に管理していただけるように指導している。

Q 生産緑地指定された場合と、そうでない場合、課税標準額がかなり違うが、一般的にどの位ちがうのか

A 場所によって違いはあるが、約200倍違う。

Q 法令で定められている標識が劣化している箇所が多くあるが、今後の対応について

A 今年度予算の範囲内で順次、新たに設置、また判読出来るように修復していく予定。

和宏の考え・意見

この問題は、市内で農業を営んでいる方から相談があり一般質問で取り上げました。生産緑地に指定されると、用途が限定されるなど厳しい要件がある一方で、再質問でも分かるように税に対して優遇策があります。

本市の場合、数箇所が不適切に管理されていますが、根拠法となる法には罰則規定がなく行政としては「指導」をしていく方法しかありません。今後も随時、改善するように指導するように提言しました。

高校生による選挙事務について

Q 吉川市や杉戸町では、4月に実施された県議会議員選挙時の投票事務の一部を、公募による市内の高校生に行ってもらう取り組みを実施しました。今後、本市でも実施する考えについて

A 本年4月28日に県から、「高校生の選挙

事務従事について」の依頼文書が県内の県立高校宛に提出、5月6日に埼玉県選挙管理委員会から「埼玉県知事選挙における高校生の選挙事務の従事について」の依頼文書が各市選挙管理委員会書記長へ通知された。

今回の知事選挙には間に合わないが、今後は、選挙管理委員会に諮り、実施していきたいと考えている。

和宏の考え・意見

「出来れば、今回の知事選挙から実施してほしい」というのが本音です。私は、若い世代の「政治離れ」選挙に無関心」がとても気になります。確かに私も20代の頃は決して関心が高かったと言えませんが、多少の関心はありました。

今回のケースも、小さな取り組みかもしれませんが、高校生が社会参画の一助にはなることは確実です。答弁では、「今後、実施したい」という趣旨の回答でした。次の選挙(衆議院選挙)には、市内の高校生が選挙事務をしている姿が見れるように願っています。

傍聴
うおちゃん!!



今回、放射線の測定の関係で、朝田議員が質問されるというのを聞き、初めて議会を傍聴しました。正直、傍聴する前までは、議場がどこにあつて、どんな議員がいて、いつ議会が開かれるのか、関心がありませんでした。しかし、今回のことを契機に、もっと八潮市のことや、議会のことに関心を持つていかなければと痛感しました。

また、今回友人も傍聴しましたが、傍聴席は満席で、議場に入ることができず、別室で音声だけの傍聴でした。(それも聞こえづらかったとのこと)

聞くところによると、近隣の市議会では、インターネット中継等で、いつでも手軽に見れるとの話です。ぜひ、八潮市議会でも早急に整備してほしいと思います。

育てる会・日帰り親睦旅行の報告



6月6日(日)毎年恒例の育てる会親睦旅行が開催されました。3月11日に東日本大震災があり開催するかどうか検討いたしましたが、参加費の一部を復興支援する形で開催し140名の参加をいただきました。今年は山梨方面の旅行となりました。ぐずついた天候でしたが、最近の議員の行いの良さ(近年雨男返上)?か、朝から良い天気にも恵まれました。八潮を出発し、ハーブ庭園の散策、お楽しみのさくらんぼ狩り、昼食、ワイン工場見学を行い、帰路渋滞に巻き込まれましたが無事八潮に戻ってきました。

今回、皆様から頂いた参加費の一部と当日集まった義捐金は、相馬市の遺児、孤児の支援金として寄付させていただきました。皆様の温かい気持ちに感謝申し上げます。来年も皆様のご参加お待ちしております。

報告 小櫃

◎高3になる息子が、先日、大学のオープンキャンパスに行っていた様子です。息子が「大学のイメージ」はどのように感じたのかに興味があります。

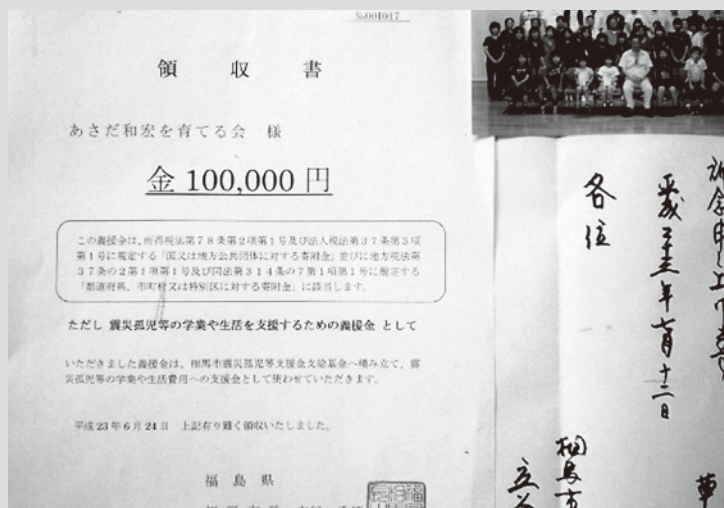
相馬市からお礼の手紙が届きました。

旅行にご参加いただいた方や、事前に届けていただいた方等から、沢山の浄財を預かり、後日、福島県相馬市へ直接届けさせていただきました。

(相馬市震災孤児等支援金支給基金)

※この基金は、今回の震災で両親等を失い孤児となった方に対して、学業や生活を支援するために、孤児が18歳となるまで毎月3万円を支給する基金です。

写真は、市長から孤児一人一人に支援金を手渡した時の様子。中にはまた幼い子供の姿があり、早くこの悲しみを乗り越え、元気に育ってほしいと願うばかりです。

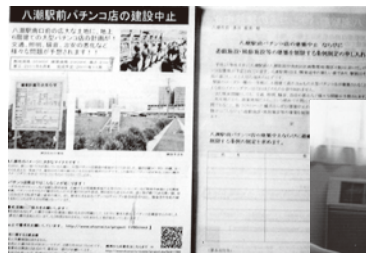


八潮駅前(南口)パチンコ店建設中止を求める署名活動の報告

多くの皆様のご協力をいただき、6,266筆の署名が集まりました。過日、関係者と共に、多田市長を訪れ、直接、署名を渡しました。

現在、現場では建設工事が始まっています。建設を中止することは難しい状況ですが、建物の色彩・緑化、ネオンサインについて、行政側と業者側が協議中とのことです。

(ちなみに議会に同様の趣旨の請願が提出されましたが、賛成少数で不採決(否決)(私は建設に反対)となりました。



被災地ボランティア活動の報告

◎6月18・19日 宮城県東松島市野蒜地域(個人)

◎7月 8・9日 宮城県石巻市地域(八潮市社会福祉協議会主催)

◎7月17・18日 宮城県東松島市野蒜地域(個人)



震災発生から3ヶ月が経過した6月・7月、上記の地域に災害ボランティアとして活動してきました。作業内容は、津波で流されてきた瓦礫(小さいもの)の撤去、家の床下に溜まった土砂の撤去、側溝に溜まった土砂(ヘドロ)の撤去作業が主な内容でした。

被災地では、街中の瓦礫は撤去されていますが、街中には津波によって破壊されたままの建物がそのままの状態でした。復興には、まだまだ時間が掛かりますが、私も出来る範囲で、これからも災害ボランティアに協力していきたいと思います。

和宏の独り言... ~当たり前のことに感謝する~



皆さん、こんにちは!

今回、週末を利用して3回、被災地へ災害ボランティアに参加しましたが、阪神淡路大震災と違う点は、地震により津波が発生し、甚大な被害が発生したことです。

私も活動の合間に沿岸部の状況を確認してきましたが、海に近い地域ほど、津波の直撃を受けて、鉄筋構造の建物以外は、コンクリート土台だけ残っているという状況でした。

この状況は、テレビ等での映像で見えていましたが、実際に自分の目で確認したときには、思わず息を飲んでしまいました。

きっと津波が来るまでは、のどかな漁村だった、松並木が美しい海岸線だったろう、平穏な日々だったろう・・・と。一瞬にして多くの尊い命と財産を奪われてしまいました。

先日、現地で作業をしていて、私の友人が小学生の名札を土砂の中から発見しました。

思わず発見した時は、「持ち主はどうなったのか」と頭を過ぎりました。「きっと当日、家に忘れていたのかな」それとも・・・。私達の地域では、震災後、数ヶ月は品不足や計画停電等、多少の混乱が生じましたが、現在はかなり元の生活に戻りつつあります。

原発事故による放射線の問題等、まだまだ懸念しなければならない状況もありますが、少々のことでも不満を言わずに「当たり前」に生活できることに感謝をする必要があると思います。

現地では、まだまだボランティアを必要としている地域が多くあります。

皆さんもこの夏、機会がありましたら是非、現地でのボランティア活動に参加してみたいはかがでしょうか。

和宏